

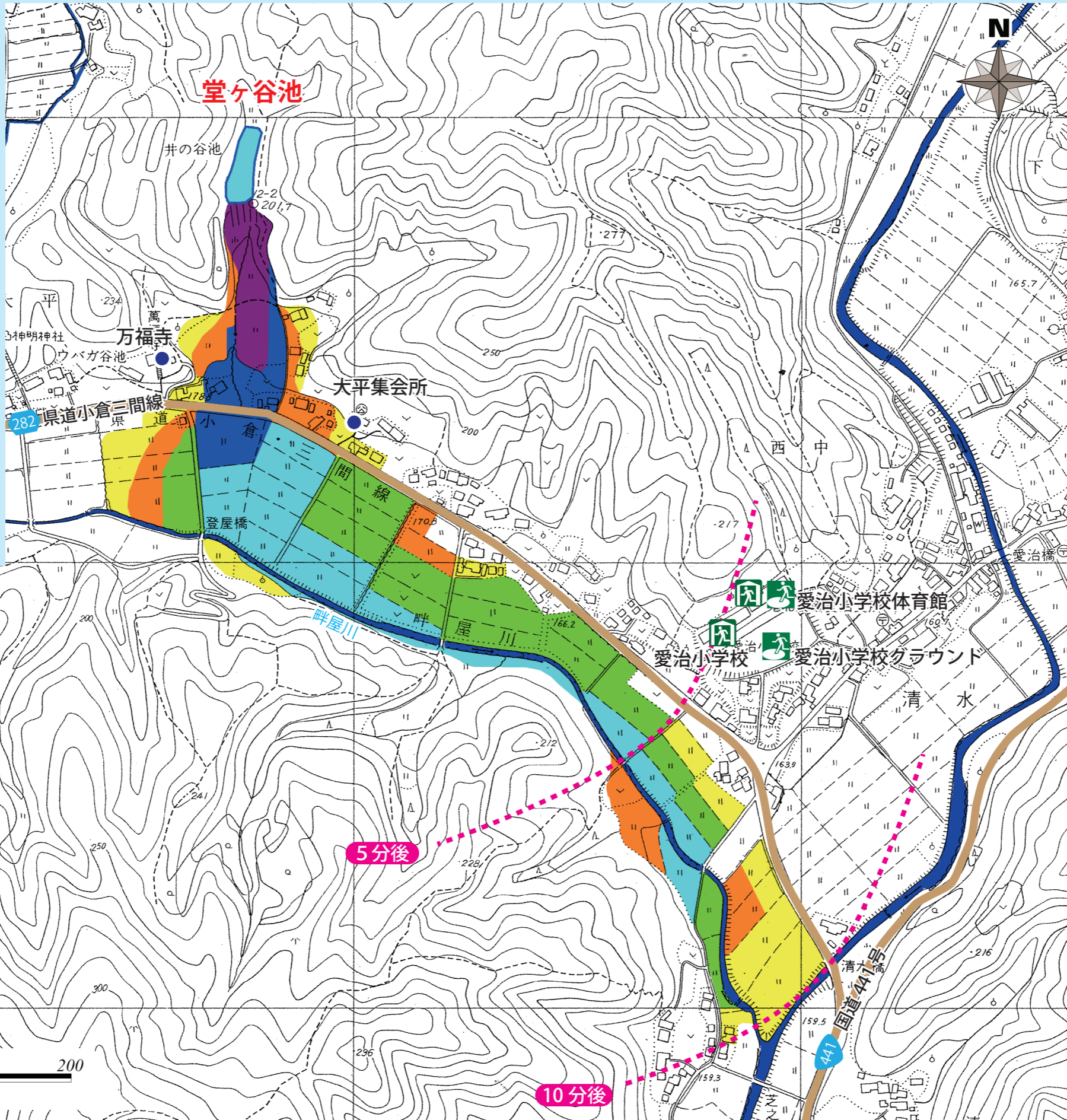
堂ヶ谷池

ため池 ハザードマップ

この地図は、農業用ため池の『堂ヶ谷池』が、南海地震などによって大きな被害を受け、ため池の堤防が決壊し、洪水が発生した場合を想定し、そのはん濫水が到達する可能性のある区域の最大範囲と、予想される浸水の深さを表示したものです。

実際のはん濫水の影響がある範囲は、ため池の貯水状況、堤体の被害の程度、周辺の土地利用状況等により、これと異なる可能性もありますが、地震が発生したら「まずは安全な場所に逃げる」ということが何よりも大切です。

地域の皆さんでこの地図をご活用いただき、地震時の安全確保に努めてください。



凡例

- 指定避難所
- 指定緊急避難場所
- 主要施設
- 主要道路

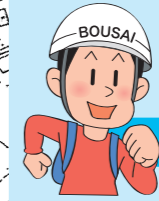
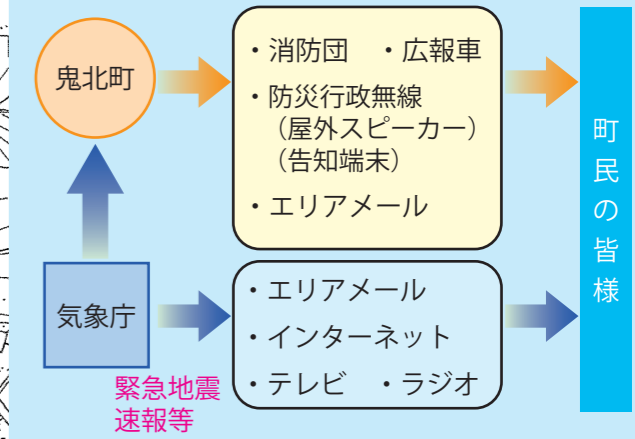
ため池のはん濫に関する凡例

- 浸水深 5.0 ~ 10m
- 浸水深 2.0 ~ 5.0m
- 浸水深 1.0 ~ 2.0m
- 浸水深 0.5 ~ 1.0m
- 浸水深 0.2 ~ 0.5m
- 浸水深 0.01 ~ 0.2m
- 到達時間
- はん濫水の到達時間線

0 100 200 m



情報伝達の流れ



地震時の心得 10ヶ条

- 1 まず身の安全を!**
ケガをしたら火の始末や避難ができてしまいます。家具の転倒や落下物には十分な対策を。
- 2 すばやく火の始末**
揺れを感じたらすばやく行動。火元付近には燃えやすいものを置かない習慣を。
- 3 戸を開けて出口の確保**
震動でドアが開かなくなることも。戸を開けて避難口の確保を。
- 4 火が出たらすぐ消火**
万一出しても天井に燃え移る前なら大丈夫。あわてず消火を。
- 5 あわてて外に飛び出さない**
飛び出しはケガのもと。冷静な判断を。
- 6 狭い路地やブロック塀には近づかない**
ブロック塀や自動販売機は転倒の恐れ。すばやく避難を。
- 7 協力し合って応急救援**
地域ぐるみで協力して応急救援の体制を。
- 8 山崩れ、がけ崩れに注意**
居住地の自然環境を把握して二次災害防止の心掛けを。
- 9 避難は徒歩で**
マイカーでの避難は危険なうえ緊急出動の障害に。ルールを守る心のゆとりを。
- 10 正しい情報を聞く**
事実はひとつ。間違った情報にまどわされず的確な行動を。